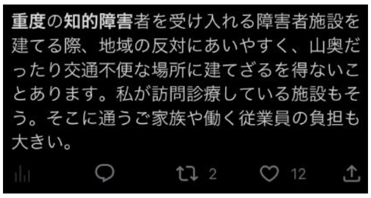
障害者本人・家族は「不幸」なのか、「幸せの可視化」の必要性について
～「相模原障害者施設殺傷事件」を振り返る～

1. 初めに

相模原障害者施設殺傷事件とは、2016 年 7 月 26 日未明に知的障害者福祉施設の元職員であった男が施設に刃物を所持して侵入し入所者 19 人を刺殺、入所者・職員計 26 人に重軽傷を負わせた事件だ。犯人の男は、犯行動機について「意思疎通のとれない障害者は安楽死させるべきだ」「重度・重複障害者を養うには莫大なお金と時間が奪われる」「障害者は不幸をつくることしかできない」と供述し、世間に大きな衝撃を与えた。

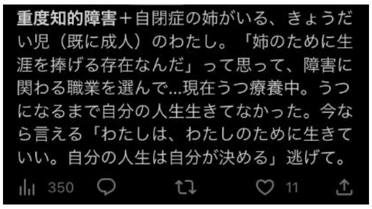
2.「障害者は不幸を作ることしかできない」

男は動機として、障害者の家族が疲労することを述べている。確かに、重度・重複障害者は寝たきり状態であったり、常に介護が必要であったりすることは事実だ。授業の中でのビデオで、重度・重複障害のあるあゆみさんは家族の介護により生活していた。自分の力で寝返りがうてないため、お母さんは寝る時間を削って深夜何度も寝る向きを変える必要があった。その光景を見る限り、私が「あゆみさん家族は幸せだ」とは言い切れなかった。SNS でも障害者の家族が介護の苦労、障害者との生活についての投稿をよく見かける。

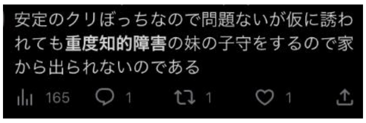

重度の知的障害者を受け入れる障害者施設を建てる際、地域の反対にあいやすく、山奥だったり交通不便な場所に建てざるを得ないことあります。私が訪問診療している施設もそう。そこに通うご家族や働く従業員の負担も大きい。

2 12

↑家族の負担の一場面についての投稿


重度知的障害＋自閉症の姉がいる、きょうだい児（既に成人）のわたし。「姉のために生涯を捧げる存在なんだ」って思って、障害に関わる職業を選んで...現在うつ療養中。うつになるまで自分の人生生きてなかった。今なら言える「わたしは、わたしのために生きていい。自分の人生は自分が決める」逃げて。

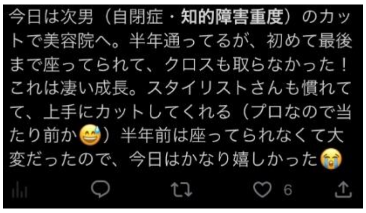
350 11


安定のクリぼっちなので問題ないが仮に誘われても重度知的障害の妹の子守をするので家から出られないのである

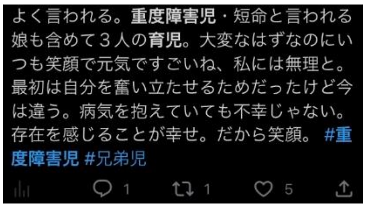
165 1 1 1

←きょうだい児の投稿

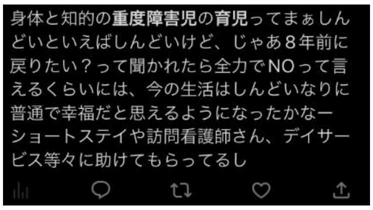
しかしあゆみさんの家族は「不幸ではない」と語る。同じように SNS でも幸せを感じることへの投稿も見られる。


今日は次男（自閉症・知的障害重度）のカットで美容院へ。半年通ってるが、初めて最後まで座ってられて、クロスも取らなかった！これは凄い成長。スタイリストさんも慣れてて、上手にカットしてくれる（プロなので当たり前か😅）半年前は座ってられなくて大変だったので、今日はかなり嬉しかった😭

6


よく言われる。重度障害児・短命と言われる娘も含めて３人の育児。大変なはずなのにいつも笑顔で元気ですごいね、私には無理と。最初は自分を奮い立たせるためだったけど今は違う。病気を抱えていても不幸じゃない。存在を感じることが幸せ。だから笑顔。 #重度障害児 #兄弟児

1 1 5


身体と知的の重度障害児の育児ってまぁしんどいといえばしんどいけど、じゃあ８年前に戻りたい？って聞かれたら全力でNOって言えるくらいには、今の生活はしんどいなりに普通で幸福だと思えるようになったかなー
ショートステイや訪問看護師さん、デイサービス等々に助けてもらってるし

ビデオ視聴や SNS の投稿を通して、ほとんどの幸せは目に見えるものではないと感じ、わざわざ幸せ

を可視化する必要はないと感じた。しかし周りに幸せであることを示さなければ、目に見える苦労だけが印象に残り、「障害者は不幸を作ることしかできない」という考えや、障害者本人・家族を「可哀想だ」と考える人が出てくるのではないかと思った。

3. 問題解決に向けて

「幸せを可視化しないと、周囲に幸せを認知してもらえない。」このことによって、世間からの障害者本人・家族に対するイメージに大きな影響を与えていると思う。障害の有無に関わらず、子育てには苦労もある一方で目に見えない小さな幸せも沢山ある。健常児を育てる際は、幸せを公開しなくても周囲から同情を買うことはほとんどないだろう。それなのに障害があるとなれば、その小さな幸せを公開しなければ「不幸」のレッテルを貼られてしまうことが多々あるのだ。これには世間が障害児と健常児で区別をしていることや、周囲のサポートに関しての無知さが原因でないかと考える。問題解決には、社会の障害者に対する考え方から変えていかなければならない。

また、実際に苦労している家族も存在する。そのような家族に対してサポートする地域社会、安心できる施設、情報を手に入れられる環境の整備が必要だと考える。現在の家族のサポートで課題が残るものとして以下のようなものが挙げられる。

・障害者施設への交通の便の悪さ
・理解者・協力者の確保
・きょうだい児への十分なサポート　など

これらの課題を解決していくために、私たちができることとして、障害者本人・家族に同情するのではなく、家族が 1 人で抱え込み悩まないように話を聞くことや、協力的な姿勢を示すことが重要でないかと思う。

4. 最後に

「幸せ」とは何か。授業の中の幸せを感じる瞬間はいつかという話し合いで、ご飯を食べるとき、寝ているとき、人と話しているときなど様々な意見が出た。このように障害の有無に関わらず、一人一人が考える「幸せ」は違うのだ。私は障害者の介護も、親や祖父母の介護も経験したことが無いので、介護の苦労が分からず、苦労して子と共に自殺を図る人もいる中で、簡単に「障害者本人・家族は、幸せだ」「幸せでない」とは決められない。生まれ変わっても障害のあるままで良いという人もいれば、障害は無いほうがいいと思う人もいる。しかし、幸せかそうでないかを第 3 者が決めることはおかしい。また、生活の中で幸せを感じなければならない理由はないと私は思う。私たちにできるサポートや、コミュニティー・繋がりを大切にすることが、障害者本人・家族を「不幸」だと決めつけない世の中への第一歩に繋がるのではないかと私は考える。

【参考文献】

NHK スペシャル　亜由未が教えてくれたこと